

婦人学級が茶釜の湯で勉強会

結城市の婦人学級「くわの実学級」が11日、通所リハビリセンター「茶釜の湯」を訪れ、介護の現場を視察し、介護についての学習会を開きました。

この日訪れたのは、桑の実学級で勉強する女性37人。「長寿社会の生き方上手」をテーマに勉強を続け、この日は第3弾として「介護社会の今を学ぶ」として、介護施設を視察、介護の現状などを学びました。

一行はまず、施設内を見学。天然温泉を使ったリハビリ用のプール施設や茨城県産の銘木で作られた広い施設を感心しながら質問していました。また、個別リハビリスペースでは、さまざまな機械の使い方を担当者に聴くなど、熱心に視察していました。カラオケルームでは、利用者が自慢ののどを披露し、その歌声に盛大な拍手を送っていました。バトンを使った健康体操を体験。手を伸ばしたり、背中やわき腹など、気持ちのいいストレッチ運動を体験しました。

続いて、荒川邦江施設長が健康寿命や介護、認知症などをテーマに講演。年を重ねるにつれて起きる介護の必要性や家族に認知症の症状が出たときにどうすればいいのか、長寿社会といわれる中で、元気に長生きできる秘訣などを講演。最後は、利用者さん自身が、どういう経緯で介護認定を受けるようになったのか、通所リハビリ施設に通うようになったのか、そして「茶釜の湯」でのリハビリの様子などを語り、くわの実学級の方からの質問に答えていました。

平成29年7月12日

